れきみん
# となん歴民だより vol.3

Morioka tonan folklore museum

平成17年5月25日発行

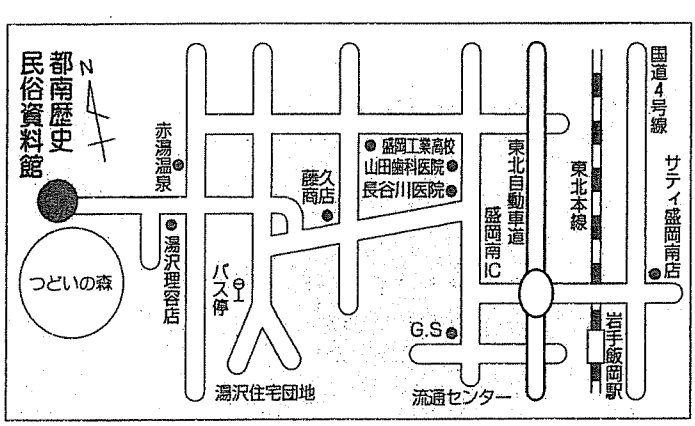
発行　盛岡市都南歴史民俗資料館　盛岡市湯沢 1-1-38　TEL019-638-7228

当館所蔵写真パネルより 「たおこし」

— もくじ —

・なんだろう？
・行事予定
・指定文化財紹介③
・寄贈・寄託
・農具・民具を貸出します！
・入館者の感想
・資料は語る③
・となんの昔ばなし③

MAP ☆ACCESS




○利用案内

開館時間
午前9時～午後4時

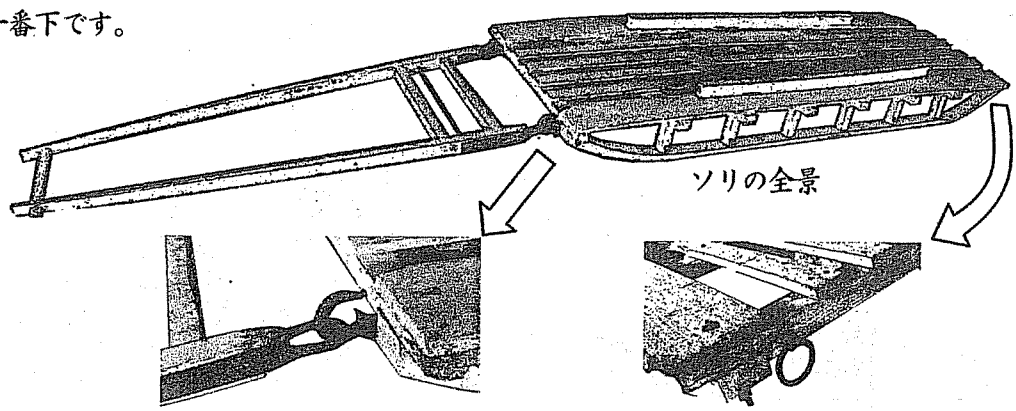
入館料
無　料

休館日
月曜日
（休日に当たるときは、直近の平日）
年末年始
（12月29日～1月3日）

## なんだろう？（資料館には見たこともない資料がたくさんあるよ。いっしょに考えてみよう。）

当資料館には、大きなソリがあります。実は最近まで「馬そり」とされていましたが、本当に「馬そり」なのでしょうか。馬そりとはその名の通り、馬に引かせて走るソリのことを言います。しかし当資料館の馬そりには、馬の引く力ではとても耐えられないような金具しかついておらず、人が牽引するための付属品が連結すると思われる金具が付いています。このことからおそらく人の力で引くソリだったと考えられます。さらにソリの後部には何かを牽引(？)するための金具が取り付けてあります。さて、それでは一体何を運ぶためのソリだったのでしょうか。昔の人々の生活を思い浮かべながら考えてみましょう。

答えはp4の一番下です。



ソリの全景

牽引するための付属品とソリの連結部　　ソリ後部の金具

## 平成17年度　歴史民俗資料館行事予定

### 史跡・文化財めぐり

当資料館は郷土の歩みについての理解を深めるため、史跡・文化財めぐりを、毎年6月と9月の2回行っています。今年度は、6月には外山・早坂・岩泉周辺の野田街道、9月は水沢・胆沢周辺の仙北街道に沿った史跡を巡ります。参加費：3,800円です。お申し込みなど詳しくは「広報もりおか」6月15日号と9月1日号にそれぞれ掲載予定です。また、ホームページ「ウェブもりおか」でもお知らせします。ぜひご参加下さい。

### 体験学習「土人形の絵付け」

平成17年7月23日(土曜日)、当資料館にて体験学習「土人形の絵付け」を行います。対象：小中学生とその保護者。参加費：200円です。お申し込みなど詳しくは「広報もりおか」7月1日号に掲載予定です。また、ホームページ「ウェブもりおか」でもお知らせします。ぜひご参加下さい。

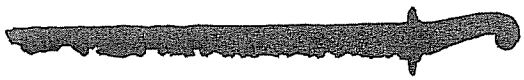
### 特別展「土人形」展

今年度の特別展は土人形をテーマにして9月15日～11月30日の期間で開催します。土人形には3月の桃の節句で飾られた雛人形だけではなく、当時の世相を表すものや昔の出来事、おとぎ話の主人公、動物など様々なものがあります。この特別展では、当時の生活のスタイルを表す土人形とそこに描かれた民俗資料を合わせて展示し、当時の様子を知る手がかりとしての土人形を再確認していただきたいと思います。

## 盛岡市所在指定文化財紹介 ③

### 盛岡市指定文化財 蕨手刀（わらびてとう）

昭和49年(1974)7月22日指定　盛岡市三本柳



蕨手刀は柄頭が丸く湾曲した刀で、その形が早蕨の頭部に似ていることから名づけられました。全国で200例ほど知られていますが、中でも岩手県内での出土が最も多く、約80例を数えます。大半が古墳など墳墓から発見されたり、伝世品が奈良の正倉院にあることから、奈良時代から平安時代初期にかけて比較的短期間に用いられたと考えられます。蕨手刀はやがて柄に透かしを持つようになり、平安時代の毛抜透大刀をへて、日本刀のルーツになったといわれています。

なお、この資料は大道西古墳より出土した蕨手刀で、当資料館にて展示しています。

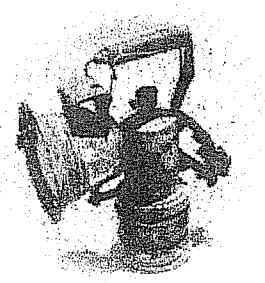
参考文献/ 1994　嶋千秋　盛岡市文化財シリーズ　第25集
「盛岡の原始・古代文化」　盛岡市教育委員会

昔の暮らしを見つめてみよう

ー学校や地域活動団体などへー

## 農具・民具を貸出します！

当資料館所蔵の民俗資料を学校や子ども会、地域活動などの場で広く役立てていただくために、資料の一部を貸出しします。



資料が身近になるといろいろなことがみえてくる

長い歳月のあいだ使い込まれてきた資料一つ一つにはその家々の暮らしぶりや手づくりの道具に対する使い手の愛着が見えてきます。児童・生徒のみなさんは、古さのなかに新しい発見が、当時子どもだった皆さんは、懐かしさと感動が得られることと思います。

資料の借受を希望する場合は、当館にご連絡下さい。

## 寄贈・寄託資料

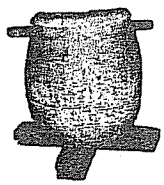
### 「16年度に寄贈または寄託された主な資料の紹介」

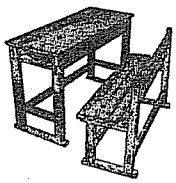
資料館や博物館では、将来の教育や研究などに役立てることを目的として、資料の収集と保存を行っています。

16年度は、現在整理中ですが350点の資料が寄贈または寄託(預けること)されました。そのうち主な物を紹介します。

土摺臼(どずりうす)

江戸時代から使われ始めた臼で、籾殻と玄米に分離させるために使われました。



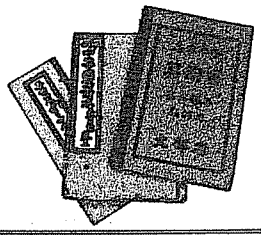


学習机・椅子

二人掛け用の学習机とその椅子で、大正後期から昭和30年頃にかけて使われました。

教科書

江戸から昭和時代にかけての教科書です。



## 16年度入館者の感想から

- 子供の頃、実家にあった農機具、とても懐かしく思いました。このような資料館は大事にしてほしいです。昔の国道4号線にはびっくりでした。その当時に行ってみたい気持ちでした。(41才・女性)

- 昔の人は面白いノートや鉛筆を使っているなと思いました。絵具がガラスの容器の中に入っていてびっくりしました。また見に来ます。(10才・女児)

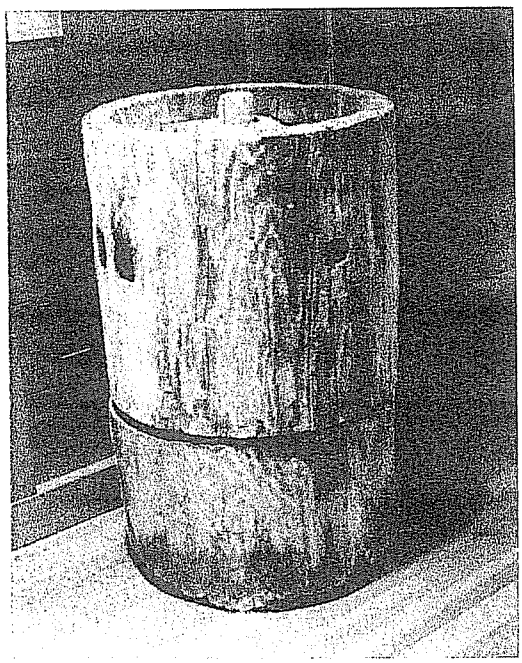
- はじめて来ました。私は歴史が好きなので大変感動しました。特に、人を乗せるカゴははじめてみたのでうれしかったです。縄文から近代まで分かり易く展示されていて楽しかったです。無料なのにもびっくりしました。(27才)

- 色々と昔の物があったのでびっくりしました。特に無料だったのでとてもよかったです。もしかしたら夏休みの研究材料にしたいです。(10才・男児)

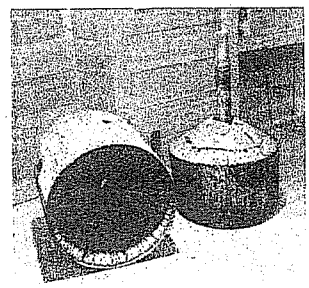
- 昔の物が色々あってすごいです。昔の人は力仕事をしてすごいです。今は便利だと思います。(10才・男児)

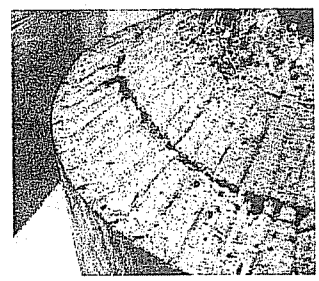
## 資料は語る　③木摺臼（きずりうす）

資料館の収蔵資料をひとつ取り上げて紹介します

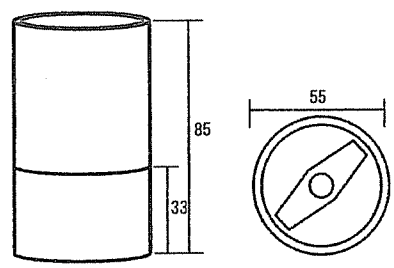


木摺臼(大ヶ生)





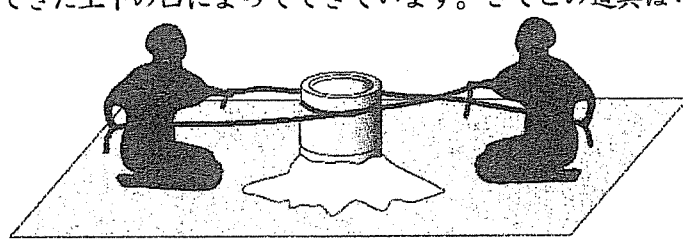
臼に刻まれた目




側面観　　上面観

計測値　(単位はcm)

この道具の名前は木摺臼(きずりうす)と言い、太い木でできた上下の臼によってできています。さてこの道具はいったいどのように使われたのでしょうか。その上下の臼の接触面には放射状の目がきざまれており、上部の臼が回転することによって、その接触面で米から籾殻をとりのぞく構造をしています。さらにその構造から、左右交互に逆転させる半回転式と一方向へ連続回転させる完全回転式にわけられます。この木摺臼は半回転式で、臼をはさみ向かい合った二人が、右、左と綱を引き合って動かしていました。



木摺臼は平安時代頃から使用されていたと考えられていますが、江戸時代中期になるとより効率的に籾殻を除去できる土でできた土摺臼(どずりうす)の普及にともなって次第に使われなくなりました。しかし木摺臼は土摺臼よりも能率は落ちるものの、米の砕けることが少なく、後々まで好んで使われた地方もあります。

参考資料／　1979　「臼-食の道具-」　名古屋市博物館

## となんの昔ばなし③（むかし）

### 『雷(いかずき)』

津志田に「いかずき」という所があります。天明の飢饉(ききん)(天明年間一七八一～八九年)のときに多くの餓死者(がししゃ)を葬ったところであるとか、あるいは松の木に打たれて死んだ人を葬った所であるとも言われています。そこは松並木が密生したところでしたが、杉の大木が一本まっすぐ伸びていました。そのため一本杉とも呼ばれていました。

夜、町の帰りなどそこを通ると、おみこしの勇ましい掛け声が聞え、だんだん近づいてくるのですが、五、六十間(約百メートル)うしろに来ると、その掛け声がたちまち消えて、後はしんと静まり返ってしまうのです。

とてもさびしくなり、体が寒気をもよおすほどでした。たいていの人は近くの家に救いを求めたものでした。その一本杉は昭和十年(一九三五年)ごろまで生えていました。

現在の「岩手いすゞ自動車」の付近です。　(終)

■出典『となんの民話』(都南歴史民俗資料館)

p２の大型のソリは次のような物を運んでいたのではないかと考えられます。①池から切り出した氷、②腕用ポンプ(消防用ポンプ)、③腕用ポンプにつけるホース。